

■ハイセイコー記念 (SII) アラカルト (過去 50 回の分析)

※第 1 回 (昭和 43 年) から第 33 回 (平成 12 年) までは「青雲賞」の名称で実施

※第 35 回 (平成 14 年) から第 36 回 (平成 15 年) までは大井ダ 1590m で実施

※第 22 回 (平成元年) は 2 頭が 3 着同着

※記録は平成 30 年 10 月 31 日時点

■ 1 番人気馬の 3 着内率は 7 割ちょうど

単勝 1 番人気馬は 18 勝、2 着 10 回、3 着 7 回で、3 着内率が 70.0%、単勝 2 番人気馬は 8 勝、2 着 12 回、3 着 5 回で、3 着内率が 50.0%、単勝 3 番人気馬は 9 勝、2 着 8 回、3 着 7 回で、3 着内率が 48.0%となっている。上位人気馬がそれなりに信頼できるレースだ。

■ ちょうど 7 割の回で 3 番人気以内の馬が勝利

過去 50 回のうち 35 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めている。なお、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフイニッシュ決着は 19 回、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着は 6 回ある。

■ 牝馬は 5 勝、外国産馬は未勝利

牝馬の優勝例は第 6 回 (昭和 48 年) のオロマツホース、第 10 回 (昭和 52 年) のリマンドタイコウ、第 23 回 (平成 2 年) のフジノリニアア、第 29 回 (平成 8 年) のセイントサブリーナ、第 44 回 (平成 23 年) のドラゴンシップと、計 5 回ある。なお、外国産馬の優勝例はまだない。

■ 騎手別の歴代最多勝記録は「8」

騎手別の勝利数を見ると、8 勝の的場文男騎手が単独トップ。4 勝の高橋三郎騎手が単独 2 位、3 勝の赤間清松騎手と宮浦正行騎手が 3 位タイとなっている。

■ 調教師別の歴代最多勝記録は「4」

調教師別の勝利数を見ると、4勝の矢作和人調教師が単独トップ。3勝の朝倉文四郎調教師が単独2位となっている。

■ 外寄りの枠番が好成績

枠番別の勝利数を見ると、8枠（11勝）が単独トップ。7枠（10勝）が単独2位、4枠と5枠（各7勝）が3位タイとなっている。また、馬番別の勝利数を見ると、10番（6勝）が単独トップ。2番、4番、6番、7番、11番（各5勝）が2位タイである。なお、未勝利の馬番は14番と16番だけだ。

<伊吹雅也>